千葉科学大学大学院　（危機管理学研究科　危機管理学専攻）

論文審査結果の要旨

氏　　名：大澤　文護
学位の種類：博士（危機管理学）
学位論文名：金正恩体制形成と国際危機管理への影響、及び日本の対処方策
　　−労働新聞の動静報告、脱北者インタビュー分析を基にした考察−
審査委員（主査）：坂本　尚史
　　（副査）：三村　邦裕
　　（副査）：安藤　生大
　　（副査）：康　仁徳（慶南大学極東問題研究所碩座教授）

本研究は、朝鮮民主主義人民共和国（以下北朝鮮と記す）では 2011 年 12 月に父である金日成の後を受けて最高指導者として国を統治していた金正日国防委員長が逝去し、その三男である金正恩氏を首班とする新体制が成立した。金正日体制から金正恩体制への「権力継承」によって最高指導者の統治スタイルや国家指導目的にどのような変化があったのか明らかにしたものである。金正日体制末期の 2009 年から金正恩体制が成立する 2014 年までの 6 年分の朝鮮労働党機関誌「労働新聞」の分析及び脱北者インタビューに基づいて、検証したものである。

その結果、金正恩の国家指導方針が、金正日体制における軍による支配を優先するいわゆる「先軍政治」とされる「軍中心」から、北朝鮮労働党による指導体制である「党中心」へと回帰していることを明らかにした。また、指導者の交代や政治体制の変化により、核開発や長距離弾道ミサイル発射など度重なる驚異の中で、今後わが国がどう対処すべきかについて、日本の役割と危機管理のあり方の観点から考察・検証を行い、今後のわが国が取るべき対応として、制裁中心から対話による「関与政策」への転換を提言している。なお、論文提出の直前に大韓民国（韓国）の混乱が発生したため、その問題についても若干の考察が加えられている。

危機管理学専攻では、博士（危機管理学）の授与方針として「広域な危機管理問題に関して複数の研究分野から総合的に検討を行い、政策・施策に関する提言を行う」としており、本論文は東アジアにおける国際危機管理について入手困難な資料を用いてから検討を加え提言を行っており、学位授与の趣旨に合致した優れたものと認められ、博士の学位を授与するに値するものと考えられる。

論文審査にあたっては、本学副学長を含む教職員や学生ばかりでなく、一般にも公開された公聴会を経て、学外委員を含む審査委員による口頭試問を行い、大澤文護氏に博士（危機管理学）を授与することが決定された。